LIBRARY
AUG 15 1960
FISH & WILDLIFE SERVICE

鮪漁業

TUNA FISHING

鮪 漁 業 研 究 会

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

No. 70, 1960

クレモナ

万漁 鮪延縄(10番手)

クレモナ10番手糸は、特に太物製品に適するように新しく製造した原糸です。その性能は従来の20番手糸と同様ですが、強力の点で特に優れているのが特長です。鮪延縄には、用途に應じてより適した原糸クレモナ10番手製品をおすゝめします。

説明パンフレット進呈

倉敷レイヨン株式会社・大阪市北区梅田2・東京都中央区日本橋室町2

鮪漁船紹介　☆第37 黒潮丸　☆第35 琴平丸
鮪漁況速報　1960年5月上旬，5月中旬，5月下旬
鮪漁場図　1959年8月操業

1959年8月に於ける鮪漁場の漁況と海況の概要
（南水研，神水試委託調査船127隻の資料による）…………… 1

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing grounds in Aug 1959
(By the data collected from the 127 appointed boats) …………… 1

1. 操業船の分布…………………… 1　　2. 海況…………………… 1
3. 漁況…………………………………………… 1

A. 東部太平洋第2漁場…………… 1　　B. 東部太平洋第3, 4漁場……………… 1
C. 中部太平洋第1漁場…………… 1　　D. 中部太平洋第2漁場……………… 2
E. 中部太平洋第3漁場…………… 2　　F. 中部太平洋第4漁場……………… 2
G. 中部太平洋第5漁場…………… 2　　H. 西部太平洋第1漁場……………… 2
I. 西部太平洋第2漁場…………… 2　　J. 西部太平洋第3漁場……………… 2
K. 西部太平洋第4漁場…………… 2　　L. 東部印度洋漁場……………… 3
M. 北，中，南部印度洋漁場………… 3

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1959年8月操業分）別表1……………… 4
月別，漁場別，鮪類体長組成表（1959年8月操業分）別表2……………… 5
マグロ漁況概況予報（1960年8月）……………神奈川県水産試験場……………… 8

会員レポート

クリスマス島西方海域の昭和34年8，9月における漁況及び海況
会員　第7昭福丸漁撈長　伊藤定規……10

ハワイ諸島北東海域の昭和34年8，9月における漁況及び海況
会員　第12丸高丸漁撈長　田中信男……10

ダイヤ嵌込鉛錘付鈎と普通鈎との比較漁業試験　晴和丸船長　加藤治男……12

まぐろ研究報告の紹介 No. 13

キハダの産卵期とその海域的差異について……………木川昭二……17
東支那海におけるマグロ延縄漁業の研究—IV
シロカジキの生態………古藤力・古川一郎・小玉恵一……17

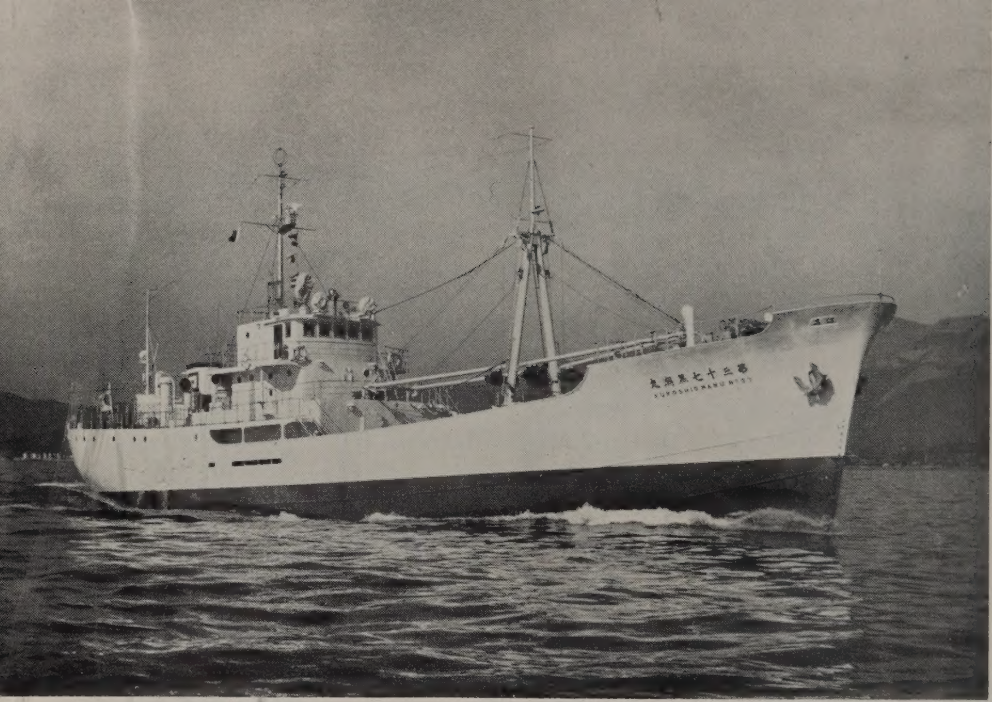
業界メモ（1960年6月）……………………………………18
鮪類水揚価格表（三崎）昭和35年5月……………………………………11
本会の図書誌の分譲其の他について……………………………………19

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736（代表）
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）7607（代表）
室戸出張所　高知県室戸市室津　TEL. 室戸 352
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町西野34　TEL. 三浦 2751
石巻出張所　宮城県石巻市門脇町104　TEL. 石巻 505

施工船名
第8大浅丸
満寿海丸
第26全功丸
永京丸
第5富士丸
第38住吉丸
（其の他約七百隻）



第37 黒 潮 丸

船　　主	日魯漁業株式会社
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長47.50m×幅8.80m×深4.20m
総屯数	478.87屯
魚艙容積	515.59m³
燃料油艙	278.44m³
速　　力	最大 13.70節
主　　機	デーゼル950IP過給機付(赤阪鉄工)1基
補　　機	デーゼル180IP (ヤンマー) 2基
無　　線	500W, 75W (日本無線) 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 高速多気筒型 3基

レーダー(東計), 方探(光電), 音測NTA-1500(産研), 操舵機ヘルショウ型(川崎重工), G.C.P, 其の他 各1式

竣　　工	昭和35年2月25日

魚群探知機
音響測深機
各種音響装置

株式会社

本社・工場　静岡県沼津市千本郷林 1907
東京営業所　東京都千代田区神田鍛治町 2 2

各種漁船用デイー
50馬力～

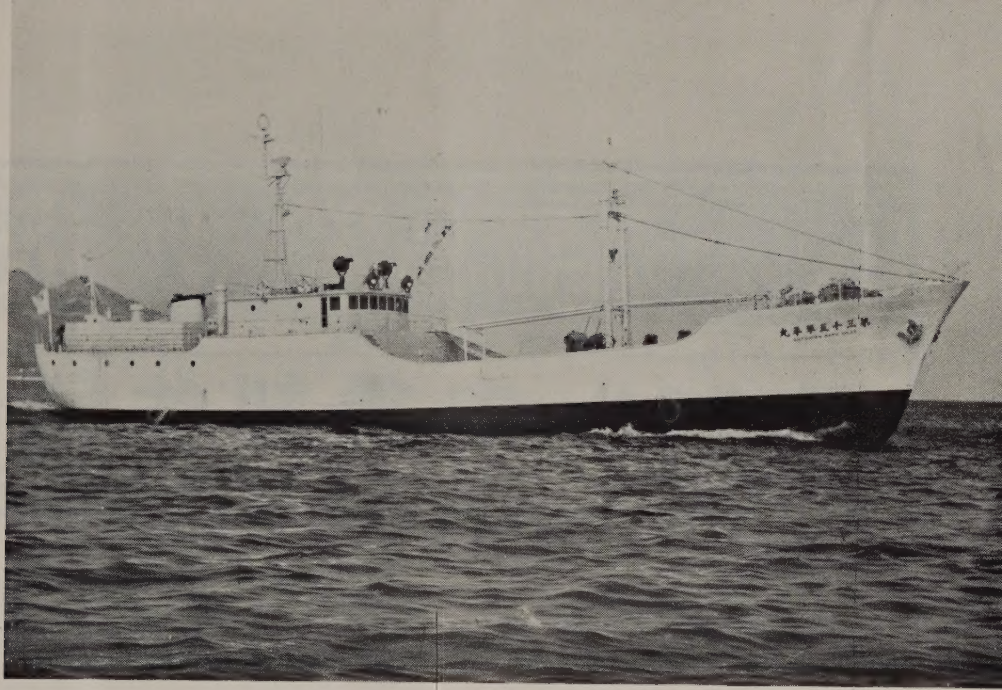
株式会社 赤

本　　社　東京都中央区銀座一
北海道出張所　札幌市北四条西六丁
大阪出張所　大阪市東区北浜四ノ三
工　　場　静岡県焼津市中港

鋼製漁船・貨物船・其の他各種船舶の建造並に修理

株式会社 三 保 造 船 所

本社 工場　静岡県清水市三保 3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7(東京建物ビル)　電話 東京(281)代表6341番



第35　琴　平　丸

船　　主	山　崎　勝　義（館山市）
造船所	株式会社　金　指　造　船　所
主要寸法	長45.97m×幅7.80m×深3.90m
総屯数	417.31屯
魚艙容積	455.56m³
燃料油艙	247.39m³
速　　力	最大　12.30節
主　　機	デーゼル950HP（新潟）　1基
補　　機	デーゼル150HP（池貝）　2基
無　　線	500W，100W（日本無線）　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 9″×9″ 80HP（中須製作所）　2基
レーダー（東計），方探（光電），音測SG-1200（産研），操舵機ヘルショウ型（川崎重工），G. C. P，其の他	各1式
竣　　工	昭和35年3月14日

産　　研

（沼　津　港）電話（沼津）　1626・4543
（今川橋ビル）電話（神田）（251）0381・5444

ゼル機関は定評ある
5000馬力

阪　鉄　工　所

三(千成屋ビル)電話京橋（561）4902～3
（北洋ビル）　電　話（3）4507
八　電話北浜（23）4790
五九四　電話（焼津）2121～5

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金　指　造　船　所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水(2) 4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2) 5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(591)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話（三浦）2851

NAKASU ナカス 船用 冷凍機

漁船用冷藏装置

株式会社 中須製作所

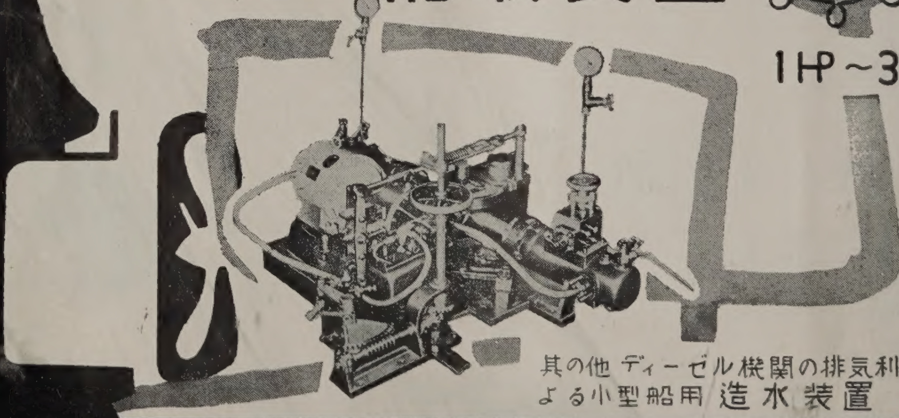
本社 東京都千代田區丸ノ内三菱仲14號館3號 電話丸ノ内(28) 8730~5

工場 東京都大田區原町177番地 電話蒲田(73) 3922・3923・3295

川崎ヘルショウ式

電動油圧 舵取装置

1HP~3HP



其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四(電)湊川(5)7531

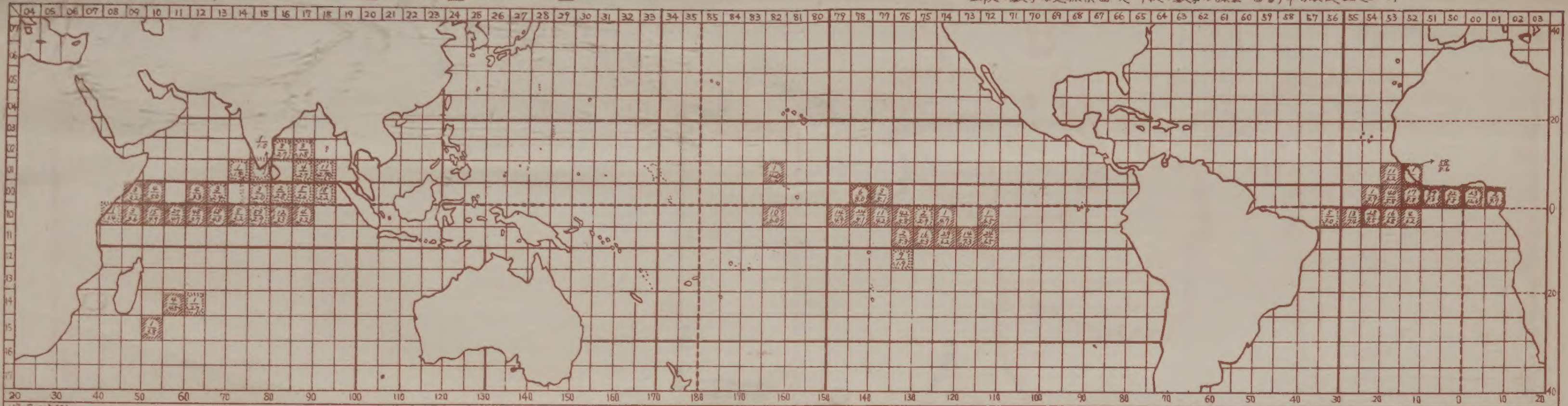
東京支店 東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電)(59) 6101

(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)

マグロ漁況通報 1960年 5月上旬

▩ は7.5屯以上, ▨ は3.1屯から7.5屯まで, ▢ は3.1屯以下を示す。

上段の数字は延操業回数 下段の数字は操業一回当り平均漁獲屯数を示す



(海区の分類)

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°-S30°, E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E80°-E100°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃
中印	中印度洋	N5°-S10°, E120°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃
南印	南印度洋	S10°以南, E20°-E120°	〃2	〃 2	N5°-N20°, 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
多島	南支那海	N5°以北, E120°以西	〃3	〃 3	N5°-S10°, 〃	〃中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北, E120°-E170°	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃	〃南	〃 南部	S5°以南, 〃
〃2	西太平洋2	N5°-N20°, 〃	〃5	〃 5	S30°以南, 〃	東大北	東大西洋北部	0°以北, W30°以東
〃3	西太平洋3	N5°-S10°, 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北, W150°以東	〃南	〃 南部	0°以南, 〃
濠西	濠州西部	S10°以南, E100°-E130°	〃2	〃 2	N5°-N20°, 〃			

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	クロマグロ
アラ	73.9	10.1				11.6	1.4	2.9		
ベン	41.5	40.2				6.2	1.6	9.3	1.1	
中印	66.8	17.0	10.2			3.2	0.7	1.4	0.7	
南印	32.2	0.9	59.6			1.1	1.5	4.3	0.3	
東太3	20.7	63.5	9.2			5.0	0.3	1.1	0.3	
西大中	56.1	5.5	31.1			5.5				1.8
東大北	76.3	3.6	18.8			0.9			0.3	
東大南	87.8	2.5	7.8			1.6			0.2	

(概況) 南印 1411 は昨年 11〜12月頃 ビンナガの好漁場(キハダ僅少)だったが ビンナガのNEへの移動とともに操業船が少なくなって行ったために資料が途切れていたところ 今旬入った資料によると キハダが相当混獲されている。 一方 中印 0012 は 12〜2月頃まではビンナガは皆無であったが 今旬から混獲されている。 但しこれは 0012 のみで 同緯度の他の海区ではビンナガの混獲は、まだ僅かである。(魚種組成右表)

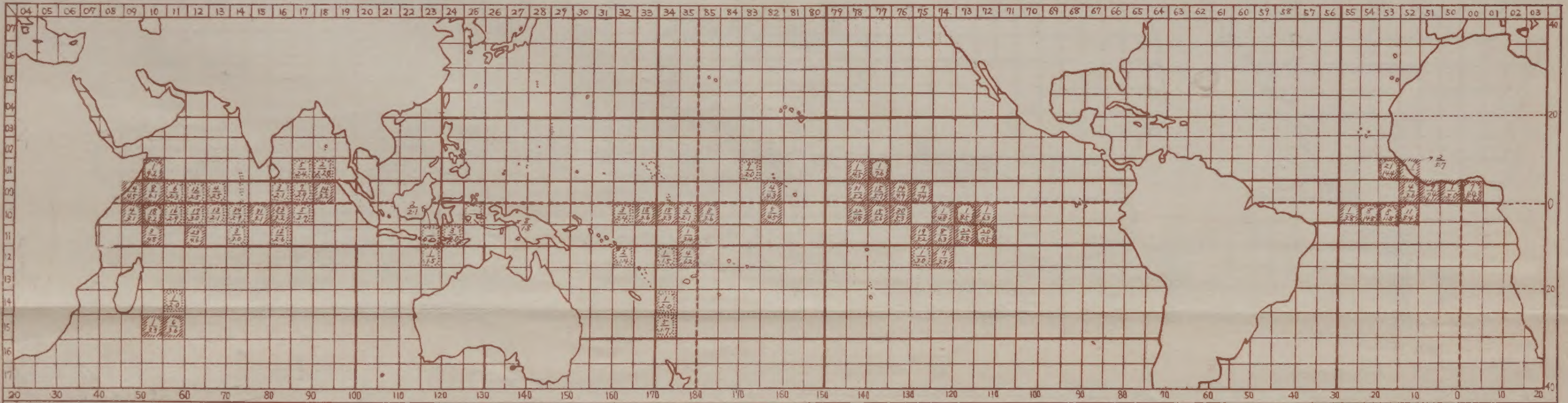
月旬 \ 海区・魚種	南印 1411 キハダ	南印 1411 ビンナガ	中印 0012 キハダ	中印 0012 ビンナガ
12月上旬	7.1 %	90.1 %	84.4 %	0 %
2月中旬	——	——	72.3	0.7
4月下旬	——	——	77.6	2.7
5月上旬	33.0	59.1	53.4	28.2

(註) 漁場小区域の番号一緯度,経度の番号で示す。北緯及東経では夫々の番号に5°をかけた数値から5°上位までの範囲。南緯,西経は夫々10及50から数えるので,これらの数値から10及50を引いて5°をかけたものから5°上位までの範囲

マグロ漁況通報 1960年 5月中旬

▩ は7.5屯以上, ▨ は3.1屯から7.5屯まで, ▢ は3.1屯以下を示す。

上段の数字は延操業回数, 下段の数字は操業一回当り平均漁獲屯数を示す。



(海区の分類)

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°-S30°, E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E80°-E100°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃	〃4	〃 4	S10°-S30°, 〃
中印	中印度洋	N5°-S10°, E120°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°	〃5	〃 5	S30°以南, 〃
南印	南印度洋	S10°以南, E20°-E120°	〃2	〃 2	N5°-N20°, 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
多島	南支那海	N5°以北, E120°以西	〃3	〃 3	N5°-S10°, 〃	〃中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北, E120°-E170°	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	
ベン	57.2	25.9				4.4	2.6	9.0	1.0	
中印	74.0	15.2	3.8			3.8	0.9	1.7	0.6	
南印	27.1	1.4	68.3			0.5	1.1	1.4	0.2	
中太3	76.6	13.4	6.8			1.7	0.7	0.8		
東太2	49.8	46.8				3.0			0.4	
東太3	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	

(概況)

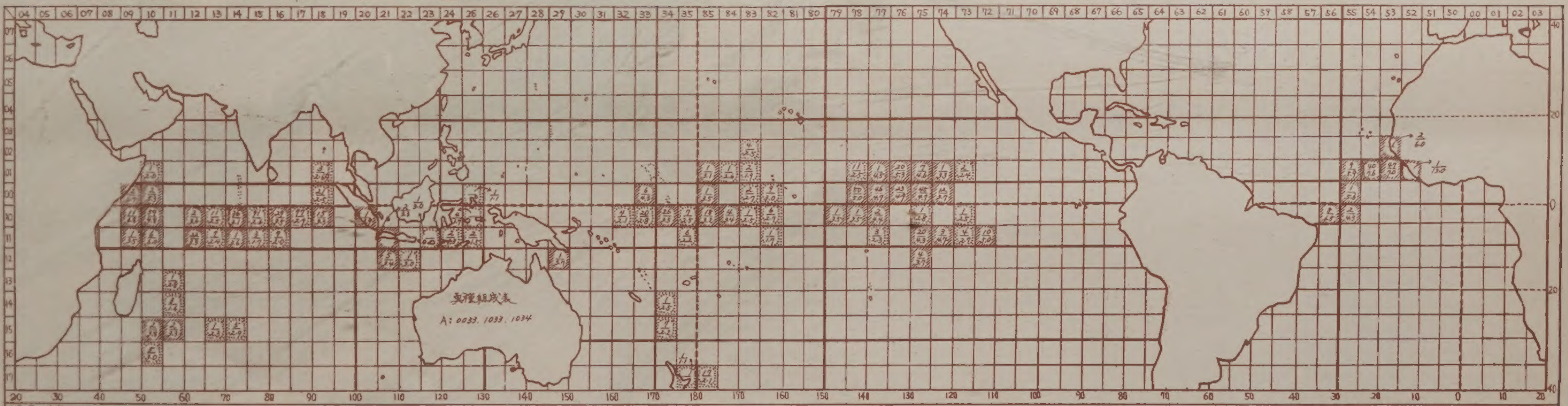
印度洋 中印は操業船数は多いが 漁況は 1010 が 8.2屯 その周辺がやゝ好漁であったほかは殆んどの海区が 3屯或はそれ以下で低調であった。

太平洋 東太平洋では 4月には操業は殆んど赤道以南で行はれていたが 5月に入って上旬には N5°まで 又本旬は N10°までひろがった。 漁獲は 4.5屯以上で好漁が続いている。 但し S10°以南は ビンナガ漁場で

マグロ漁況通報 1960年5月下旬

▨ は75尾以上, ▨ は31尾から75尾まで, ▨ は31尾以下を示す。

上段の数字は延操業回数、下段の数字は操業一回あり平均漁獲尾数を示す



(海区の分類)

符号	名称	範囲	符号	名称	範囲	符号	名称	範囲
アラ	アラビア海	N5°以北, E80°以西	西太4	西太平洋4	S10°-S30°, E130°-E170°	東太3	東太平洋3	N5°-S10°, W150°以東
ベン	ベンガル湾	N5°以北, E80°-E100°	・5	〃 5	S30°以南, 〃	・4	〃 4	S10°-S30°, 〃
中印	中印度洋	N5°-S10°, E120°以西	中太1	中太平洋1	N20°以北, E170°-W150°	・5	〃 5	S30°以南, 〃
南印	南印度洋	S10°以南, E20°-E120°	・2	〃 2	N5°-N20°, 〃	西大北	西大西洋北部	N5°以北, W30°以西
南支	南支那海	N5°以北, E120°以西	・3	〃 3	N5°-S10°, 〃	・中	〃 中部	N5°-S5°, 〃
西太1	西太平洋1	N20°以北, E120°-E170°	・4	〃 4	S10°-S30°, 〃	・南	〃 南部	S5°以南, 〃
・2	西太平洋2	N5°-N20°, 〃	・5	〃 5	S30°以南, 〃	東大北	東大西洋北部	0°以北, W30°以東
・3	西太平洋3	N5°-S10°, 〃	東太1	東太平洋1	N20°以北, W150°以東	・南	〃 南部	0°以南, 〃
濠西	濠洲西部	S10°以南, E100°-E130°	・2	〃 2	N5°-N20°, 〃			

(魚種組成)

海区	キハダ	メバチ	ビンナガ	インド	ゴウシュウ	クロカワ	シロカワ	マカ	メカ	
中印	74.1	14.6	2.8			4.8	1.2	2.1	0.4	
南印	21.3	3.3	73.1			0.1	0.5	1.1	0.7	
A	95.1	3.4	0.1			1.0	0.3	0.1	0.1	
中太3 1082	55.6	5.3	36.7			2.4				
中太5 1785		0.2	53.0		46.4				0.4	
東太2	39.0	54.4				5.6	0.3	0.3	0.5	
東太3	40.4	50.7	2.8			3.9	0.3	0.4	0.4	
東太4	9.6	11.2	78.6			0.3	0.2	0.2		

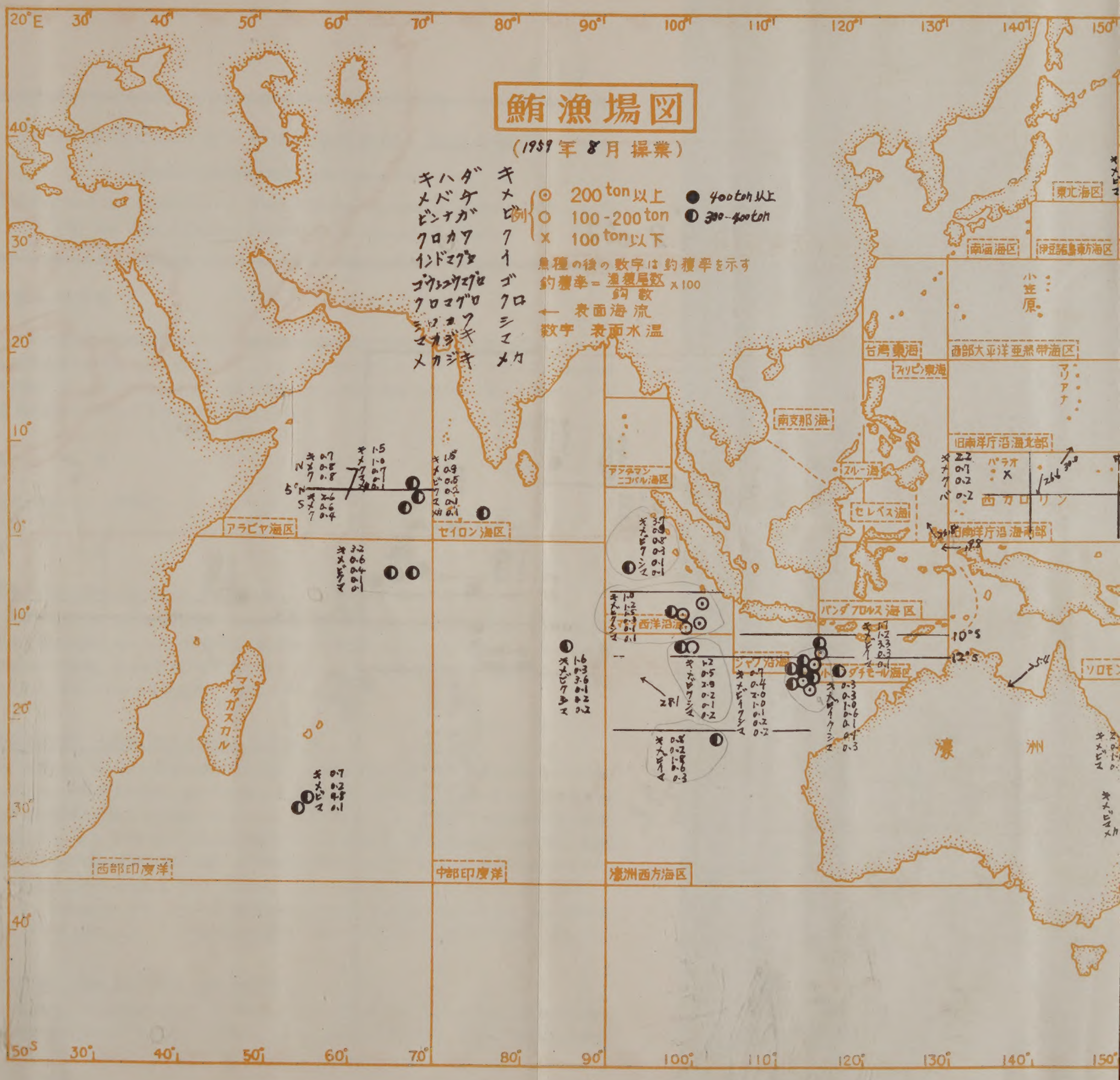
(概況)

東太2 東太3 5月上旬以来操業海区が次第に北へひろがっているが 本旬は更に 5°〜10°N で 115°W まで操業されるようになった。 一方 0°〜5°S 135°W 以東では操業回数、漁獲尾数共に激減した。

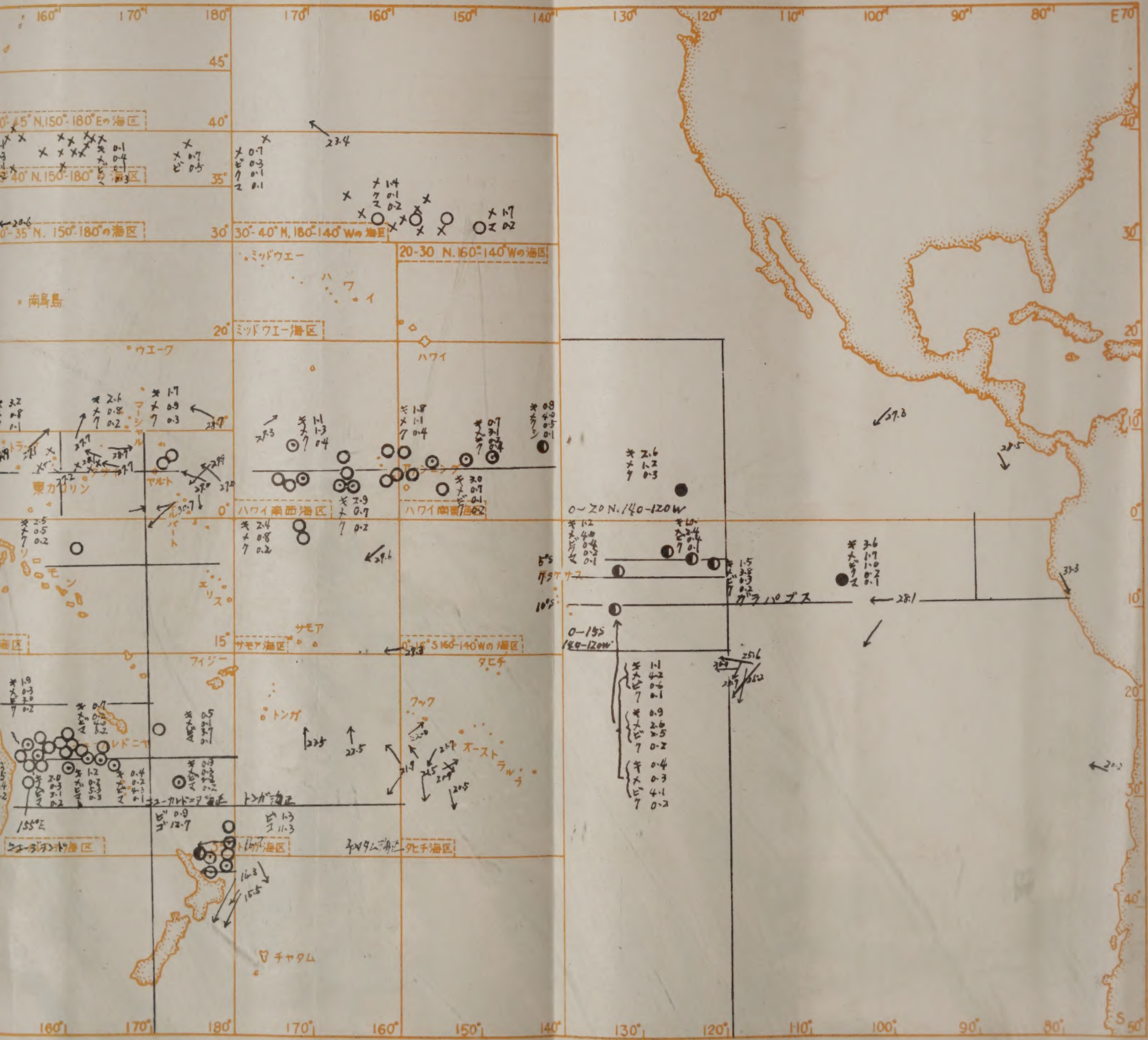
0°〜10°N 145°〜115°W ではメバチの漁獲は操業1回平均 50〜60尾で海区による差は少ないが、キハダは 5〜50尾と海区によって非常に異り、漁獲尾数の多少は このキハダの多少に大体比例している。

中太5 1785(ゴウシュウマグロ・ビンナガ)の漁況が入ったが、漁獲はまだ少なく操業1回 1.0〜4.5尾 平均2.1尾であった。

(註) 漁場小区域の番号…緯度,経度の符号で示す。北緯及東経では夫々の符号…をつけた数値から5°と位までの範囲、南緯、西経は夫々10及50から数えるので、これらの数値から10及50を引いて…をつけたものから5°位までの範囲



鮪漁場図
(1959年8月操業)
キハダ キ
メバチ メ
ビンナガ ビ
クロカワ ク
インドマグロ イ
ゴウシュウマグロ ゴ
クロマグロ クロ
シロカワ シ
マカジキ マ
メカジキ メカ
例
200 ton 以上
100-200 ton
100 ton 以下
400 ton 以上
300-400 ton
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数/釣数 x 100
← 表面海流
数字 表面水温
東北海区
南海海区
伊豆諸島東方海区
小笠原
台湾東海
西部太平洋亜熱帯海区
フィリピン東海
マリアナ
南支那海
旧南洋庁沿海北部
パラオ
西カロリン
旧南洋庁沿海南部
スルー海
セレベス海
アンダマン ニコバル海区
アラビヤ海区
セイロン海区
バンダ フロルス海区
ジャワ沿海
チモール海区
ソロモン
濠洲
マダガスカル
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区



160°
170°
180°
140°
130°
120°
110°
100°
90°
80°
E70
45°
40°
35°
30°
20°
15°
10°
0°
S 50
30°-40°N, 180°-140°Wの海区
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー
ハワイ
南鳥島
ミッドウエー海区
ウエーク
マーシャル
東カロリン
ヤルート
ギルバート
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
0~20 N.140-120W
ソロモン
エリス
ガラパゴス
サモア
サモア海区
0°-15°S 160°-140°Wの海区
フィジー
タヒチ
トンガ
クック
オーストラル
ニューカレドニア
155°E
トンガ海区
タヒチ海区
チャタム

1959年8月におけるマグロ漁場の漁況と海況の概要

（南水研、神水試委託調査船105隻の資料による）

Fishing and Ses Condition of Tuna Fishing Ground in August 1959
(By the data collected from the 127 appointed boats)

1. 操業船の分布

ファンニング諸島西南方海域に密集していた操業船は8月には5°N周辺の東西に広く散在し，ニューカレドニア南方海域に密集していた操業船はニュカレドニア西南方からクレートサンチー島沖合にかけての海域に移動した．また，ニュージランド北方海域とジャワ南方海域の操業船が著しく増加し，マダガスカル島東南海域では新しく2隻が操業した．

2. 海　　況

漁場図を見られたい．（別紙）

3. 漁　　況

A 東部太平洋第2漁場（5～20°N，150°W以東）

パルミラ島東方の5～10°Nの海域は150°Wに明瞭な分布の境がみられ，150°W以東の，この漁場は以西の中部太平洋第2漁場よりキハダの漁獲が低く釣獲率は好漁獲にもかかわらず0.7～0.9，メバチの漁獲は以西の海域が不漁期，以東の海域が好漁期であるため，以西より著しく高く，150°W近くで3.1，140°W近くで4.0，またクロカワも好漁期で7月よりやや高くなった．

B 東部太平洋第3，4漁場（5°N～15°S，150°W以東）

3°N，126°W周辺は，キハダが好漁末期でこの海域としては比較的漁獲が高く釣獲率2.6，メバチは好漁期にもかかわらず漁獲は異常的に低く釣獲率1.2，3～15°Sの海域では，キハダが南よりに漁獲が低いが3～10°Sの海域は不漁期で釣獲率は0.9～1.5，メバチは5～7°Sの水帯がなお好漁期で最も漁獲が高く釣獲率は3.8～4.2，3～5°Sの水帯が低下期7～10°Sの水帯が上昇期で漁獲は共に中程度，釣獲率は2.1～2.4，10～15°Sの水帯は著しく低くなり釣獲率は0.3，またビンナガはキハダと逆に南よりに漁獲が高く，釣獲率は3～5°Sが0.4，5～7°Sが0.6，7～10°Sが2.5，10～15°Sが4.1となっている．

また，ガラパゴス海区の6～9°S，11～105°W周辺の漁獲は120°W以西の漁獲と異なり，キハダが高く釣獲率3.6，メバチが低く1.7，ビンナガはこの海域としては中程度の1.0となっている．

C 中部太平洋第1漁場（20°N以北，180～150.W）

メバチは不漁期で，釣獲率は39°N，175°W周辺が0.7，30～35°N，165～155°Wの海域が1.4，31°N，150°W周辺が1.7とわずかに東よりに高い．マカジキは好漁期であるが，漁獲は昭和30年以前と

同様低い.

D　中部太平洋第２漁場（5～20°N，170E～150°W）

この海域はメバチの漁場であるが，キハダが好漁期でメバチが不漁期のため，ファンニング諸島東方海域とマーシャル諸島東方海域はキハダの漁獲が釣獲率1.7～1.8でメバチの0.9～1.1より高い．5～10°N，180～160°Wの海域は，キハダがやはり好漁期であるが160°W以東，180°以西の海域より漁獲が低いので，メバチの漁獲と同程度である．なお，クロカワは好漁期で釣獲率は0.4程度である．

E　中部太平洋第３漁場（5°N～10°S，170°E～15°W）

0～5°Sの海域のキハダは７月と同様好漁期における一時低下のため漁獲はわずかに低く釣獲率2.9～3.0，サモア海域北部のキハダも同様の傾向で，釣獲率は0～5°Sの海域よりやや低く2.4となっている．

F　中部太平洋第４漁場（10～30°S，170°E～150°W）

ニューカレドニア島南端の東方海域とノーフォーク島東方海域はビンナガが好漁期で，釣獲率はニューカレドニア島東方が3.7，ノーフォーク島東方が4.2となっている．

G　中部太平洋第５漁場（30°S以南，170°E～150°W）

ニュージランド北側及び北東側はゴウシュウマグロが最盛期で，釣獲率は北側で12.7，北東側で11.3と極めて高い．

H　西部太平洋第１漁場（20°N以北，180°以西）

35～40°N，150～180°Eの海域で全船が操業しているが，この海域はメバチの漁獲が上昇し始めて釣獲率は150～160°Eが0.3，160～170°Eが0.4，170～180°Eが0.7，またマカジキも25～30Nの海域から北上して来て釣獲率は150～170°Eで0.2～0.3となっている．

I　西部太平洋第２漁場（5～20°N，170°E以西）

パラオ諸島東方，ポナペ島周辺，及びクサイ島周辺は，メバチが不漁期，キハダが好漁期のためメバチよりキハダの方が漁獲が高く，昨年と同傾向であり，釣獲率はパラオ諸島東方海域が2.2，ポナペ島周辺が3.2，クサイ島周辺が2.6である．

J　西部太平洋第３漁場（5°N～10°S，170°E以西）

ソロモン群島東北方海域は，キハダの漁獲が７月よりわずかに高いがやはり不漁期で釣獲率は2.5となっている．

K　西部太平洋第４漁場（10～30°S，170E以西）

ニューカレドニア西南方からクレートサンデー島沖合にかけての海域に22隻が操業しているが漁獲は東西により異なり，キハダは西よりに高く，特にブリスベーン沖は釣獲率4.3で著しい高率である．これに対しビンナガは，155°E付近に分布の境をもち（漁場図参照），キハダの漁獲の高い以西の濠洲沿岸はビンナガの漁獲が非常に低く釣獲率1.0～1.4，キハダの漁獲の低い以東の海域はビンナガは好漁期で漁獲が著しく高く，釣獲率は3.0～5.3である．なお，マカジキは上昇し始めたばかりで漁獲は低い．

L　東部印度洋漁場（90°E以東）

キハダは，2°S，92°E周辺が特別漁獲が高く釣獲率3.7となっているが，全般的に不漁期で漁獲は低い．12°S以北の海域のメバチは好漁期であるが漁獲は西よりに高く，釣獲率はバリ島南方が1.2，スマトラベンクーレンの西南方海域は100°E以東が0.8～1.3，100°E線が1.7，その西方海域は2.5となっている．なお，100°E以西の海域のメバチの漁獲は6月の釣獲率1.0から8月に2.5と上昇したもので，100°E以東の魚群が既に以西の海域に移動したものと考えられる．

これに対しビンナガは北上し，10～12°Sの水帯が最も漁獲が高く，ココス島周辺が釣獲率2,9，バリ島南方が3.3，その北側の6～10°Sの海域が1.5，0～6°Sの海域が0.8，また南側のバリ島南方の海域は115°E以西が2.0，以東が1.0，22°S，102°E周辺が1.8，また12°S以南，100 E以東の海域のマカジキは好漁期初期でわずかに漁獲が高く，釣獲率は0.2～0.3となっている．

なお，インドマグロはまだ不漁期であるが多少漁獲されている．

M　北，中，南部印度洋漁場（90°E以西）

マルディヴ諸島東方の1～4°Nの海域はキハダが不漁期のため全魚種が不漁，マルディヴ諸島西方の海域はキハダが不漁期で，釣獲率は5°N以北が0.7，5°N以南が2.6，0～5°Nの海域のクロカワが好漁期で釣獲率は0.4，ただし5～6°Nの海域も漁獲が高く，釣獲率は0～5°Nの海域よりむしろ高く0.8となっている．

その南方のチャゴス諸島西方海域のキハダも不漁期であるが，不漁期にしては比較的漁獲が高く釣獲率3.2，この漁場の東端の11°S，84°E周辺は北上して来たビンナガが釣獲率3.6で，その東方海域より漁獲が高く，やはりその東方海域より漁獲の高い釣獲率1.6のキハダと共に比較的多獲されている．

また，印度洋南西部のレユニオン島南方28°S周辺の海域は，ビンナガの釣獲率が9.8で著しく漁獲が高く，最盛期と考えられる．

比重調整
樹脂加工　クレモナまぐろロープ

特徴
① まぐろの喰い良い
② 毎航海のタール染不要
③ 他の追随を許さない耐久力と耐摩耗力

営業種目……クレモナ、綿延縄及び仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテックスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話武蔵野(2)3978・7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話　三浦2957番

月別、漁場別鮪類漁獲調査表（1959年8月操業分）

（別表1）

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温（c）	操業回数	漁具数	鈎数	きはだ	めばち	びんなが	くろまぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう	かつお	雑	さめ	計	備考
0—20N 140—120W	2—4N 128—125W	1	0	23.7 26.0	5	2.100	8.400	222 2.64	102 1.21				21 0.25	1 0.01	1 0.01	1 0.01					348 4.14	
0—15S 140—120W	2—15S 140—118W	5	1	22.1 28.1	82	37.711	167.660	1929 1.15	3670 2.19	1342 0.80			254 0.15	21 0.01	112 0.07	19 0.01	3 0.00	358 0.21	365 0.22	340 0.20	8413 5.02	
ガラパゴス	6—9S 111—105W	1	0	23.8 24.8	23	9.960	40.400	1469 3.63	696 1.72	416 1.03			68 0.17	10 0.02	47 0.12	8 0.02					2713 6.71	
30—40N 180—140W	29—40N 180—173W	13	0	19.8 26.9	226	40.552	215.953	57 0.03	4632 2.14	232 0.11	4 0.00		296 0.14	3 0.00	522 0.24	15 0.01	50 0.02		396 0.18	358 0.17	6565 3.04	
ハワイ南西 5N以北	4—11N 178—157W	4	0	27.1 29.2	38	14.900	62.550	670 1.07	784 1.25	6 0.01			243 0.39	3 0.00	2 0.00	5 0.01	2 0.00		13 0.02	72 0.12	1800 2.88	
ハワイ南西 5N以南	0—8N 177—161W	8	3	26.3 29.2	111	41.782	171.068	4967 2.90	1157 0.67	16 0.01			263 0.15	14 0.01	8 0.01	20 0.01	9 0.01	14 0.01	21 0.01	133 0.08	6622 3.87	
ハワイ南東 5N以北	3—9N 163—140W	5	1	26.6 28.9	76	29.310	138.840	2123 1.53	2533 1.82	54 0.04			579 0.42	39 0.03	7 0.01	17 0.01	6 0.0		22 0.02	34 0.02	5417 3.90	
ハワイ南東 5N以南	0—7N 164—150W	2	0	26.5 29.1	23	8.700	43.006	1281 2.96	302 0.70	26 0.06			106 0.24	4 0.01							1719 3.97	
サモア	2S—4N 177—165W	2	1	27.2 28.9	34	13.193	64.845	1532 2.36	520 0.80	2 0.00			95 0.15	3 0.00	2 0.00	11 0.02				152 0.23	2317 3.57	
チャタム	33—35S 180—177W	1	0	15.0 16.7	10	3.290	16.450			214 1.30	3 0.02	1855 11.28				2 0.01					2074 12.61	
35—40N 150—180E	35—41N 151E—179W	16	0	20.0 25.0	179	51.647	257.236	167 0.06	1064 0.41	208 0.08	5 0.00		20 0.01	1 0.00	635 0.25	72 0.03	2 0.00		109 0.04	1082 0.42	3365 1.31	
南洋南部 170E以西	4—9N 135—169E	6	0	28.6 30.4	103	34.557	142.127	3834 2.70	1135 0.80	5 0.00			247 0.17	2 0.00		1 0.00	55 0.04	58 0.04	480 0.34		5817 4.09	
南洋南部 170E以東	1—12N 167—179E	2	1	28.4 29.8	44	16.660	78.000	1292 1.66	686 1.88	3 0.00			229 0.29	6 0.01	7 0.01	8 0.01	1 0.00		1 0.00	2 0.00	2235 2.87	
ソロモン	2—4S 161—162E	1	0	29.3 .9	5	1.970	9.850	247 2.51	47 0.48				23 0.23			1 0.01	4 0.04				322 3.27	
ニューカレドニア	2—30S 153—180E	24	3	18.0 29.4	422	154.286	1.275.206	8123 0.64	2189 0.17	32775 2.57	20 0.00	5 0.00	214 0.02	82 0.01	1315 1.10	522 0.04	26 0.00	35 0.00	623 0.05	362 0.03	47292 3.71	
ニュージランド	32—37S 174—180E	7	3	14.2 17.6	79	22.145	115.857	2 0.00	37 0.03	1064 0.92	6 0.01	14994 12.74			9 0.01	15 0.01		3 0.00	12 0.01	91 0.08	16233 14.01	
小スンダ・チモール	10—12S 113—117E	2	0	24.6 26.2	16	6.608	31.416	528 1.68	337 1.20	1033 3.29		103 0.33	7 0.02	9 0.03	16 0.05	8 0.03					2081 6.62	
スマトラ西岸	1—12S 88—102E	6	0	26.5 29.3	48	23.996	117.050	1853 1.58	1320 1.13	1539 1.31			375 0.32	91 0.08	106 0.09	17 0.01	11 0.01		45 0.04		5357 4.85	
濠洲西方	10—25S 98—118E	12	0	20.4 27.5	165	26.780	328.567	2326 0.71	1337 0.41	6439 1.96		2883 0.88	316 0.10	469 0.14	533 0.16	98 0.03			42 0.01		14443 4.40	
セイロン	1—4N 69—87E	1	0	28.4 28.9	12	4.800	24.000	347 1.45	211 0.88	116 0.48			49 0.20	7 0.03	28 0.12	26 0.11					784 3.27	

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温(c)	操業回数	漁具数	鈎数	まぐろ きはだ	めばち	びんなが	くろまぐろ	いんどまぐろ	かじき くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう	かつお	雑	さめ	計	備考
アラビア	0—7N 64—83E	3	1	27.2 29.8	38	15.059	69.196	1030	695	14			485	17	61	96	34	9	14		2455	
中部印度洋	6—18S 73—97W	1	0	33.1 29.1	35	14.850	57.650	914 1.59	168 0.29	2062 3.58			59 0.10	96 0.17	102 0.18	12 0.02			12 0.02	117 0.20	3542 6.14	
西部印度洋	0—29S 52—58E	4	1	19.2 29.1	89	65.116	283.090	4763 1.68	969 0.34	17536 6.19		60 0.02	124 0.04	81 0.03	249 0.09	88 0.03	2 0.00		20 0.01	57 0.02	23949 8.46	
合計																						

月別漁場別鮪類体長組成表（1959年8月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	計	漁獲尾数
	1	0—15S 140—120W	5—15S 140—128W	28									1 5.2	6 31.6	5 26.3	7 36.8			19 100	416
	1	30—40N 180—140W	30—32N 153—147W	21						1 3.3					2 6.7				3 100	1
き	3	ハワイ南西 5N以南	1—6N 177—161W	50						16 3.8	95 22.7	166 39.7	163 39.0	142 34.0	45 10.8	7 1.7	10 2.4	3 0.7	~~418~~ 100	3020
	1	ハワイ南東 5N以南	5—8N 151—146W	9							3 4.4	7 10.3	33 48.5	12 17.6	9 13.2	2 2.9		2 2.9	68 100	131
は	1	サモア	4N—2S 174—168W	16						1 0.7	5 3.3	32 21.3	66 44.0	41 27.3	4 2.7	1 0.7			150 100	865
	1	南洋南部 170E以東	1—10N 169—177E	20					1 1.3	16 21.3	24 32.0	11 14.7	17 22.7	4 5.3	1 1.3			1 1.3	75 100	564
だ	3	ニューカレドニア	22—28S 153—160E	68					1 0.2	26 5.6	83 17.8	111 23.9	102 21.9	73 15.7	59 12.7	8 1.7	1 0.2	1 0.2	465 100	2164
	1	アラビア	0—7N 68—83E	16								1 3.1	13 40.6	8 25.0	10 31.3				32 100	415
	1	西部印度洋	24—29S 52—58E	30						1 0.5	6 3.3	6 3.3	32 70.3	90 49.5	27 14.8	9 4.9	5 2.7	1 0.5	182 100	343

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181cm以上	計	漁獲尾数
めばち	2	0 — 15S 140 — 120W	5—15S 141—127W	52					4 2.8	3 2.1	4 2.8	3 2.1	16 11.3	10 7.1	21 14.9	23 16.3	31 22.0	26 18.4	141 100	1783
	1	30 — 40N 180 — 140W	30—32N 153—147W	21				1 1.7	2 1.5	11 8.1	24 17.6	2 1.5	12 8.8	24 17.6	39 28.7	15 11.0	5 3.7	1 0.7	136 100	551
	3	ハワイ南西 5N以南	0—6N 177—161W	50					9 3.7	45 18.2	40 16.2	53 21.5	64 25.9	21 8.5	11 4.5	3 1.2		1 0.4	247 100	479
	1	ハワイ南東 5N以南	5—8N 151—146W	9					2 2.7	11 15.1	7 9.6	7 9.6	11 15.1	8 11.0	13 17.8	8 11.0	3 4.1	3 4.1	73 100	563
	1	サモア	4N—2S 174—168W	16					1 1.4	17 23.6	14 19.4	21 29.2	13 18.1	4 5.6	2 2.8				72 100	373
	1	南洋南部 170E以東	1—10N 169—177E	20						7 22.6	4 12.9	11 35.5	7 22.6	1 3.2	1 3.2				31 100	208
	3	ニューカレドニア	22—28S 153—160E	68				3 1.0	12 4.1	20 6.8	43 14.7	31 10.4	118 40.3	49 16.7	13 4.4	4 1.4			293 100	679
	1	ニュージランド	32—34S 178—180E	9						2 50.0	1 25.0		1 25.0						4 100	22
	1	アラビア	0—7N 68—83E	16						1 4.8	2 9.5	1 4.8	5 23.8	6 28.6	5 23.8			1 4.8	21 100	298

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120cm以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241cm以上	計	漁獲尾数
いんどまぐろ		西部印度洋	24—29S 52—58E	30				24 70.6	8 23.5	1 2.9	1 2.9								34 100	0
		ニュージランド	32 — 37S 177 — 180E	34	94 19.5	96 19.9	116 24.0	87 18.0	71 14.7	15 3.1	1 0.2	3 0.6							483 100	4748

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251cm以上	計	漁獲尾数
くろかわ	1	0 — 15S 140 — 120W	5—15S 140—128W	28					3 10.7	5 17.9	5 17.9	5 17.9	1 3.6	4 14.3	1 3.6		1 3.6	3 10.7	28 100	88
	1	30 — 40N 180 — 140W	30—32N 153—147W	21		1 7.1		1 9.1	1 9.1		1 9.1	1 9.1	4 36.4	1 9.1			1 9.1		11 100	24
	3	ハワイ南西 5N以南	1—6N 177—161W	50	1 0.7	26 17.3	17 11.3	19 12.7	26 17.3	17 11.3	9 6.0	9 6.0	10 6.7	11 7.3	1 0.7	2 1.3		2 1.3	150 100	114
	1	ハワイ南東 5N以南	5—8N 151—146W	9		3 15.8	1 5.3	2 10.5	4 21.1	2 10.5	1 5.3	2 10.5		2 10.5	1 5.3	1 5.3			19 100	80
	1	サモア	4N—2S 174—168W	16		1 6.3			1 6.3	4 25.0	3 18.8	5 31.3	1 6.3		1 6.3				16 100	48
	1	南洋南部 170E以東	1—10N 169—177E	20		3 25.0	1 8.3	1 8.3	3 25.0	2 16.7			1 8.3		1 8.3				12 100	58
	3	ニューカレドニア	22—28S 153—160E	68			2 9.5	4 19.0	4 19.0	1 4.8	3 14.3	1 4.8	3 14.3			2 9.5		1 4.8	21 100	21
	1	アラビア	0—7N 68—83E	16	1 0.9		5 4.6	4 3.7	31 28.4	20 18.3	17 15.6	9 8.3	7 6.4	5 4.6	6 5.5	3 2.8		1 0.9	109 100	188
	1	西部印度洋	24—29S 52—58E	30				1 20.0			1 20.0		1 20.0	2 40.0					5 100	9

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	151cm以上	計	漁獲尾数
しろかわ	1	サモア	4 N— 2 S 174—168 W	16							1 50.0		1 50.0						2 100	2
	1	ニューカレドニア	25— 27 S 153—155 E	21				1 9.1		2 18.2	3 27.3	3 27.3	2 18.2						11 100	1
	1	アラビア	0— 7 N 68— 83 E	16						1 33.3	1 33.3		1 33.3						3 100	7
	1	西部印度洋	24— 29 S 52— 58 E	30							1 20.0		3 60.0	1 20.0					5 100	12

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾数
めかじき	1	サモア	4— 2 S 174—168 W	16											1 50.0	1 50.0			2 100	6
	1	南洋南部 170 E以東	1— 10 N 169—177 E	20								1 50.0			1 50.0				2 100	2
	3	ニュカレドニア	22— 28 S 153—160 E	68				1 1.5	1 1.5		5 7.5	5 7.5	6 9.0	4 6.0	11 16.4	3 4.5	12 17.9	19 28.4	67 100	103

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾数
	1	西部印度洋	24— 29 S 52— 58 E	30									1 5.9	2 11.8	2 11.8	8 47.1	3 17.6	1 5.9	17 100	12

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	計	漁獲尾数
まかじき	1	0 — 15 S 140 — 120 W	5— 15 S 140—128 W	28								1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0				4 100	34
	1	31 — 40 N 180 — 140 W	30— 32 N 153—147 W	21			4 30.8	3 23.1	1 7.7	4 31.8	1 7.7								13 100	68
	1	南洋南部 170°E以東	1— 10 N 169—177 E	20					1 50.0				1 50.0						2 100	6
	1	ニューカレドニア	25— 27 S 153—155 E	20					1 3.2	4 12.9	9 29.0	10 32.3	6 19.4	1 3.2					31 100	35
	1	アラビア	1— 7 N 68— 83 E	16					6 75.0	2 25.0									8 100	29

マグロ漁況概況予報 (1960年8月)

神奈川県水試 漁業指導科

<u>東部太平洋第1漁場 (20°以北, 150°W以東)</u>

30°N, 145°W 周辺のメバチは不漁期に当り, 漁獲は低く, 1.2屯程度, これに対し, マカジキが好漁期に当り, 漁獲は7月と同様0.2屯となるでしょう.

<u>東部太平洋第2漁場 (5°～20°N, 150°W以東)</u>

5～10°N, 150～110°Wの海域は, キハダの漁獲が低下し始め, 1.8屯程度, メバチは7月にひき続き好漁期で, 5.1屯位の漁獲があるでしょう.

<u>東部太平洋第3漁場 (5°N～10°S, 150°W以東)</u>

0～5°N, 150～110°Wの海域は, 5～10°N, 150～110°Wの海域と同様の漁況で, キハダの漁獲が低下途上で2.3屯, メバチが好漁獲で4.4屯の漁獲, 0～10°S, 150～110°Wの海域は, キハダは不漁期で漁獲が0.9屯, メバチは0.3°S, 150～110°Wの海域のみ不漁期で1.5屯, 3～10°S, 150～110°Wの海域は概して好漁期に当り, 3.8～5.8屯の漁獲となるでしょう.

また, 南よりの10°S近くでは, 0.7屯位のビンナガが漁獲されるものと思われます.

<u>東部太平洋第4漁場 (10°～30°C, 150°～110°W)</u>

北よりの海域のビンナガは, 1.2屯, 南よりの22°S付近以南の海域は1.8屯程度の漁獲となるでしょう.

<u>中部太平洋第1漁場 (20°N以北, 180°～150°Wの海域)</u>

メバチは不漁期に当るが, 漁獲は7月よりやや高くない1.2屯, マカジキは好漁期に当り, 漁獲は7月と同様0.2屯程度でしょう.

<u>中部太平洋第2漁場 (15°～20°N, 170°E～150°W)</u>

メバチは不漁期で1.0屯, これに対し, キハダは5°N以南の漁場の影響を受けて好漁期となり, 0.8屯, クロカワも好漁期に当り, 0.4屯の漁獲となるでしょう.

<u>中部太平洋第3漁場 (5°N～5°S, 170°E～150°W)</u>

5°N～5°Sの全海域にわたり, キハダが7月に続いて好漁期であり, 0～5°Nの海域が2.1屯, フェニックス諸島周辺が1.8屯, クリスマス島南方海域が3.2屯程度の漁獲となるでしょう.

5～10°Sの海域は, キハダが不漁期で0.7屯位の漁獲でしょうが, エリス, トケラウ諸島の周辺ではビンナガが多獲され, 0.6屯位の漁獲となるでしょう.

<u>中部太平洋第4漁場 (5°～30°S, 170°E～150°W)</u>

サモア諸島よりサンタクルス諸島に至る海域と22～30°Sの海域のビンガは好漁期に当り, 漁獲は, 北側の海域が0.9屯, 南側の海域が1.8屯程度になるでしょう.

<u>中部太平洋第5漁場 (30°S以南, 170°E～150°W)</u>

ニュージランド北方海域のゴウシュウマグロは最盛期で, 漁獲は7.8屯となるでしょう.

<u>西部太平洋第1漁場 (20°N以北, 180°以西)</u>

25～35°N, 150～180°Eの海域のメバチは好漁期に入り, 漁獲は0.9屯, また, 35～45°N, 145～

175°Eの海域にはマカジキが出現し，漁獲は0.3屯となるでしょう．

メカジキは，7月にひき続き，伊豆諸島東方海域の漁獲が高く，0.3屯位，沖大東島から小笠原諸島にかけての海域のキハダも7月にひき続き好漁期で，漁獲は0.5屯位でしょう．

西部太平洋第2漁場（5°～20°N，170°E以西）

5～13°Nの海域は，西よりからメバチが好漁期に入り，漁獲は0.65屯位，また，10°N付近以南の海域ではキハダが好漁期で，漁獲はメバチよりも高く，1.2屯を越すでしょう．

西部太平洋第3漁場（5°N～10°S，170°E以西）

この漁場のキハダは全海域にわたり不漁期で，漁獲は0.9～1.2屯となるでしょう．

西部太平洋第4漁場（10°～30°S，170°以西）

キハダは不漁期に当りますが，オーストラリア沿岸では若干漁獲され，クックタン沖付近が0.7屯，ロックハムプトン沖付近が1.4屯，ブリスベーン沖付近はかなり高く3.0屯の漁獲があるでしょう，

15～30°Sの，オーストラリア沿海を除く海域は，ビンナガが好漁期で，中部以北が0.8屯，南部が1.5屯，また，この海域のキハダは西よりに漁獲が高く，平均0.8屯位の漁獲はあるでしょう．

なお，ブリスベーン沖におけるキハダ漁場とビンナガ漁場の境は，155°E付近になる見込みです．

濠洲西方漁場（100°E以東）

バンダ，フロレス海のキハダは不漁期で0.25屯，大，小スンダ列島南方沖合のキハダも不漁期で，漁場は列島の極く沿海のみで，漁獲は1.8屯位，また，12°S以南のインドマグロは，好漁期前期で，漁獲はやはり低く，0.8屯に満たないでしょう．

これに対し，メバチとビンナガは好漁期で，大，小スンダ列島沿海から12°Sに至る海域のメバチは2.0屯，10～15°Sと，22～30°Sのビンナガは0.9屯位の漁獲となるでしょう．

北部印度洋漁場（5°N以北）

ベンガル湾はキハダ，メバチ共に不漁期で，漁獲は，キハダが0.7屯，メバチが0.5屯，また，アラビア海もキハダ，クロカワ共に不漁期で，漁獲はキハダが0.6屯，クロカワは不漁期に当るが，5°N線近くの海域は，5°N以南の海域の影響下にあり，多獲されるかもしれません．

中部印度洋漁場（5°N～10°S，100°E以西）

キハダは今海域にわたり不漁期で，セイロン南方からスマトラ沿岸にかけてこの海域は1.2屯，その南方の赤道以南の海域が2.4屯，マルディヴ諸島周辺以西の海域が2.0屯，その南方の赤道以南の海域が2.6屯程度の漁獲でしょう．

なお，マルディヴ諸島以西の0～5°Nの海域はクロカワが好漁期に当り，漁獲は，昭和32年以降低下しているのであまり高くはないが，0.4屯位にはなるでしょう．

南部印度洋漁場（10°S以南，100°E以西）

10～15°S，22～30E，50°E以東の海域はビンナガが好漁期に当り，10～15°Sの海域が0.9屯，22～30°Sの東部は1.5屯，西部は3.0屯となるでしょう．

会 員 レ ポ ー ト

クリスマス島西方海域の，昭和34年8，9月における漁況及び海況

会員 伊 藤 定 規 （7昭福丸漁撈長）—第19号—

1. 1回から4回まで，Kingman R. から Coashigton I. 付近にかけて操業したが，小型魚のみであり，また，シャチが多く，成績は芳しくなかった．水温は28.4～29.1°C，海流はEの流れで，1.2ノットであった．

2. 5回から20回までは，クリスマス島周辺で操業したが，水温は，8月下旬で27.2～28.2°C，9月に入り26.8～27.4°Cに低下，海流は，同島北側でNW流が0.7～1.5ノット，同島西側でW流が0.5～1.5ノット，風はSE～ESEの向きで風力2～3，水色は4であった．

3. クリスマス島周辺には，非常に小さいマグロが多く，どの魚種の胃袋も，小イカ，エビ，小ダイ等で一杯であった．キハダは，中型魚が8割，大型魚が2割，メバチ，クロカワは，数は少なかったが大型魚のみであった．なお，キハダの7割までは未成熟卵を持っていた．

ハワイ諸島北東海域の，昭和34年8，9月における漁況及び海況

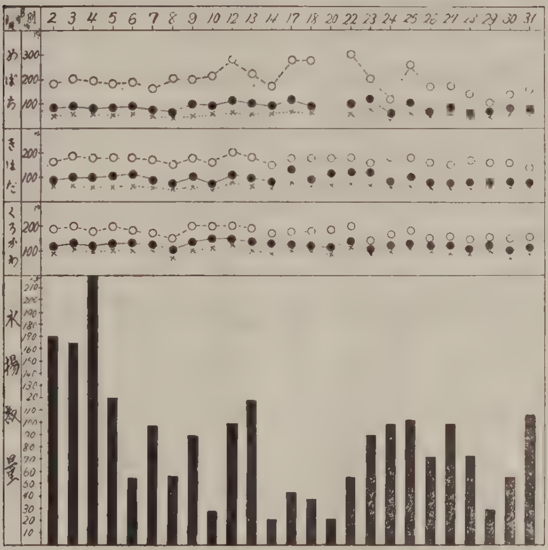
会員 田 中 信 男 （12丸高丸漁撈長）—第20号—

1. 付近の操業船の漁模様
 1） 13回まで—各船平均よりも良好．
 2） 14～17回—1隻のみ700貫平均が1週間続く．
 3） 18～25回—各船平均300貫で，全般に漁がない．
  9月に入り漁況は恢復し，29°N，157°W付近で600貫平均が約1週間続いたが，本船到着と同時に低下した．
 4） 26～31回—29°N，161°W付近に約10隻が集合したが，500貫平均が5～6日続いた．

2. 漁況と海況の考察
 1） 8月上，中旬頃，30°N，150°W付近をWNW方向に走る，表面水温23.3～23.9°Cの不連続線は，例年と同様に存在した．この西側においては，例年より早く上昇して高い表面水温となったが，東側においては，上昇が遅く，最高時で0.7～1.0°C低いまま秋型に入った．アリューシャンの高気圧から北東の風が吹き続けたためと思う．
 2） 夏型メバチ魚群の停滞位置と移動のコースは，例年と同様であるが，漁況変化の時期はやや早く，約20日位ずれている．但し，表面水温が最高となった時期，また，秋型に移る時期である9月2，3日頃は，大差がなかった．
 3） 9月上旬以降，表面水温下り坂の秋型海況になってからは，1)と関連して，漁場位置は南にずれ，32°Nから29～30°Nに移っている．
 4） クロカワの釣獲率は例年と大差がないが，160°W以西のキハダは増加しており，29°N，170～153°Wの付近で，21回操業して62本漁獲した船と，23回で34本漁獲した船があった．
 5） 152～149°W付近に中層水温の谷間がみられるのは例年と同様あるが30°15′N，152°05′Wで8月6日の表面水温24.0°Cの日没時に測定した，水温100mで16.4°C，150mで13.6°Cは，過去5年間における最低記録である．

6) メバチ魚群の停滞，好漁の期間は年々短くなり，次の位置に出現して好漁となるまでの不漁期間が長く，且，徹底的になりつつある．

7) メバチは夏型漁況の時，150°W以東では中型が揃い，西方に偏する程，大，小の差が大きくなり，ハワイ南西海区のメバチと同傾向である．



鮪類水揚価格表（三崎）
昭和三十五年五月

『SUNISO』御 採 用 の 鮪 船

神奈川水試相模丸他大洋、日魯、五洋、清寿、徳島水産各会社所属船約50数隻

SUNISO OIL の（スニソ オイル）
御 用 命 は

米国サンオイル社特約販売店
日 本 興 産 株 式 会 社

本 社　東京都千代田区神田紺屋町37（丸喜ビル）
電 話 (551) 5 4 7 1. (291) 9 0 2 8
出張所　大阪市西区立売堀北通 1 （立売堀ビル）
日本通商内. 電 話 (53) 0303. 0437

＝晴和丸第21次航海調査報告書より＝

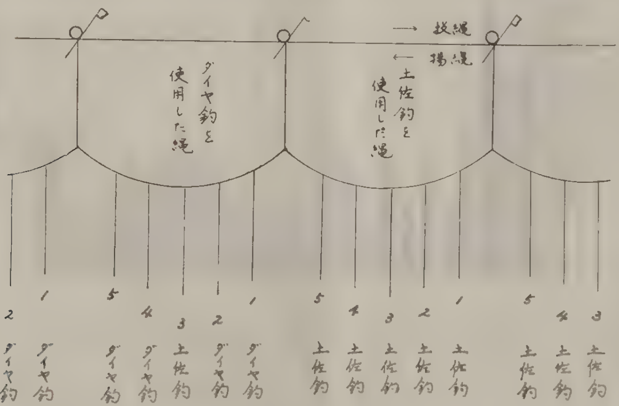
ダイヤ篏込鉛錘付鈎と普通鈎との比較漁業試験

愛知県遠洋漁業指導練習船
晴和丸船長　加　藤　治　男

試　験　方　法

始めの4回は土佐釣だけの縄を全部投縄した後に続いて投縄したが，装置時間が短か過ぎるので5回目よりランプ16箇（255枚）投縄した後に続いて投縄，山下式ダイヤ環釣を用いた縄が済んでから又土佐釣のみのもの約90枚を投縄した．

ランプNo.1 ○——(255枚)——○ ランプNo.16 ——(約85枚)——○ 目印 ——(約90枚)——○ 大旗
←　土佐釣普通縄　→←　ダイヤ釣縄　→←　土佐釣普通縄　→



ブラン，セキヤマ，ツリモトワイヤ共にダイヤ釣も土佐釣も長さ，質同じ．ダイヤ釣にサメが喰ってワイヤのメッキがとれた場合にはその都度ワイヤを切り新しく釣巻きして次の日に使用した．

◎装置時間の計算

投縄時間——→

T_1 ランプNo.1 ○——(255枚)——○ T_2 ランプNo.16 ——(枚数a)——○ T_3 目印 ——(枚数b)——○ T_4 大旗

t_4　　　　t_3　　　　t_2　　　　t_1

←——揚線時間

$$\text{土佐釣の縄の平均装置時間} = B = \frac{\left(\frac{t_4+t_3}{2} - \frac{T_1+T_2}{2}\right)\times 255 + \left(\frac{t_2+t_1}{2} - \frac{T_3+T_4}{2}\right)\times b}{255+b}$$

$$\text{ダイヤ釣の縄の平均装置時間} = A = \frac{t_3+t_2}{2} - \frac{T_2+T_3}{2}$$

◎記録及び計算

記録には経験の少い本科3年生では正確性が少いと思われたので経験1年の専攻科1年生がこれに当り，計算は私が自分で行った．

釣獲率の計算であるがダイヤ釣個々を基準とせずダイヤ釣を使用してある縄と土佐釣ばかりの縄と云う様に1枚を単位として計算した．従って釣獲率1と云う事は縄1枚に1尾喰った事を意味する．又，カツオ，バセウ，サメその他の雑魚はこれを除いた．尚，4貫目以下のバチとかきわだと云う様に小さな魚は操舵をするものがこれを漁獲物として記録しないのでその場合にはダイヤ釣の記録にはマークをつけさせて計算の時これを除外した．操業の終り頃漁が少くなって小さなものが多くなったので操舵をする者にも記録させた場合にはダイヤ釣の場合にもマークを附せず全部記録に数えた．しかし前の場合も後の場合もサメ喰いやシャチ喰いは計算に入れてない．従って釣獲率の対象となる数の比率は全くその日，その日に於ては同じである．又実際に釣獲率の差を計算する場合の要素を考慮する必要があるが，ダイヤ釣はすっかり明るくなってから投縄され夕まづめのうちに揚げられる．従って率が悪い様にも考えられるが，土佐釣の方も装置時間が長いのでサメやシャチにやられる率が多い事，死んだ魚は揚縄に際して脱れる率も時間と共に多くなる事，時間がたてばサンマの鮮度が落ちはずれるものが多くなる．その他いろいろ考えるとキリがないので結局数字でもって計算し得る装置時間に比例するものとして計算した．時間比とは$\frac{B}{A}$を云う．

$$釣獲率の差 = \frac{ダイヤ釣の縄にかかった魚の数}{a} \times \frac{B}{A} - \frac{土佐釣の縄の魚の数}{255+b}$$

投縄の実際操作上の問題

土佐釣にはサンマを頭からダイヤ釣にはアゴから釣に差したわけであるがダイヤ釣の差し方は大変技術を要し急を要する場合にはうまく差せないと云う感があった．

◎投げる時どうしても勢いが強いので，枝縄やセキヤマがもつれるとサンマがちぎれて釣から離れる様な事がしばしばあった．

◎船から遠くに投げられるので枝縄のもつれは少い．

◎実際に特別な差は見なれない．

揚縄の実際操作上の問題

縄の張り具合その他を見るため，全操業期間中，土佐釣の縄約40枚とそれに続くダイヤ釣の縄60枚は私自身でラインホーラのハンドルをもって捲いて見た．

◎ブランもつれ及び縄もつれは魚の喰ったもつれ以外殆んどない．

◎土佐釣の縄よりダイヤ釣の縄の部分はかなり抵抗があり重いが一様に縄が張っているせいか揚げやすい．

◎魚の喰っている時の手応えは土佐釣よりよい．

◎土佐釣の縄より汐に対する抵抗がかなりあるものと見られ汐したてに流されている率が多い．その為その前後の土佐釣の部分は張って浮かされている場合が多い．

◎土佐釣の折れたものは1本も見られなかったがダイヤ釣の消耗の殆んどは魚が喰って折れたものばかりである．従って折損の率は多いと云う事になる．

土佐釣の消耗（殆んど流失又は切断流失）— $\frac{494本}{5,005本}$

ダイヤ釣の消耗（折損　　　　　）— $\frac{18本}{350本}$

(殆んど流失又は切断流失) $\frac{22本}{350本}$

◎ブラン繰りの際釣にはづみがついてサイド．ローラーの所迄飛んできて主縄にかかりやすい．

◎縄作りの際ブランのよりわけをしなければならず手数がかかる．

釣獲率及び海況との関係

釣獲率はかなりよく1枚に就いて平均 0.0252 だけ土佐釣の縄より上廻る事になる．

しかしこれに就いて一様によいと云うのではないが調査の進むにつれて海況と密接な関係がある事がわかった．一覧表の右端の海況はその関係を調べるためのもので，風力，波浪，ウネリの値は投縄開始より揚縄終了迄の20時間の平均値で，係数とはその3つの値の合計であり，数値の高い程海が時化ている事になる．此の係数と釣獲率の関係を示すと次の様になる．これは極めて重要な事でダイヤ釣は使用方法を誤るとかえって悪い結果を招く事がわかる．

係数	9.0以上	8.9～7.0	6.9～5.0	4.9以下	平均7.67
回数	10	16	8	4	38
釣獲率の差の平均値	0.0685	0.0428	㊀ 0.0012	㊀ 0.1007	0.0252

季節風の強い漁区或いは赤道反道反流の区域の様な凪の悪い所で使用すれば極めてよい成績があげられる．

◎季節風の少い所や定った風の吹かない時期に使用するとあまり効果がない．

ベタ凪やそれに近い海況の多い漁場，時期には使用してはならない．此の時期にも風が吹く事も考慮して使用するとすればウケ下のブラン即ち1番と5番のみに用ふれば成績が挙げられるのではないかと思う．

◎雲量との関係は土佐釣と同じで雲量の多い方がよく釣れる．

鮪延縄漁具製作に革命をもたらす新漁具

鮪延縄用SKスリーブ及びプレッサー

実用新案登録番号　132570・132571

本品は手軽に締めつけが出来て誰でも出来不出来がありません．その上製作に時間と労力を要せず強度も一定で革命的のものであります．東京水産大学練習船海鷹丸では夙に使用されていて実用上その耐久力強度については充分に立証されております．

須　田　製　作　所

営業所　東京都中央区銀座東6—4日交ビル　電話(54)3904～7
第1工場　東京都中央区月島通11—6　電話(64)1095
特約販売店　三浦市三崎港　日本民営産業KK三崎出張所　電話(三浦)2205．3503
※ 説明資料は鮪漁業研究会に申込下さい ※

成績一覧表

回数	ダイヤ環釣 縄数	ダイヤ環釣 装置時間	ダイヤ環釣 漁獲物	ダイヤ環釣 一枚の釣獲率	装置時間比	普通土佐釣 縄数	普通土佐釣 装置時間	普通土佐釣 縄数	普通土佐釣 装置時間	普通土佐釣 縄数計	普通土佐釣 平均装置時間	普通土佐釣 漁獲物	普通土佐釣 一枚の釣獲率	釣獲率の差	海況 投縄開始ヨリ揚縄終了迄ノ平均値（合計—係数） 風力	波浪	ウネリ	係数	備考
回	枚	時—分	尾			枚	時—分	枚	時—分	枚	時—分	尾			風力	波浪	ウネリ	係数	
1	81	2—18	0	0.0000	2.5455	—	—	344	11—41	344	11—41	14	0.0407	⊖ 0.0407	1.7	1.0	0.0	2.7	
2	87	4—51	1	0.0115	2.3643	—	—	323	11—28	323	11—28	15	0.0464	⊖ 0.0192	2.3	2.0	1.0	5.3	
3	86	4—48	6	0.0698	2.5313	—	—	344	12—09	344	12—09	45	0.1308	0.0459	4.0	4.0	2.0	10.0	
4	71	4—44	3	0.0423	2.5141	—	—	344	11—54	344	11—54	26	0.0756	0.0307	3.3	3.3	2.0	8.6	
5	87	8—23	7	0.0805	1.4235	88	5—37	255	14—10	343	11—56	48	0.1399	⊖ 0.0253	3.0	2.0	1.0	6.0	
6	87	7—10	34	0.3908	1.5581	88	4—10	255	13—35	343	11—10	163	0.4752	0.1337	3.7	3.3	2.0	9.0	
7	88	7—21	9	0.1023	1.5374	87	4—40	255	13—34	342	11—18	54	0.1579	⊖ 0.0006	4.3	4.0	4.0	12.3	
8	86	7—44	11	0.1279	1.5388	89	4—49	255	14—23	344	11—54	67	0.1948	0.0019	3.7	3.7	2.0	9.3	
9	87	7—20	5	0.0574	1.5523	88	4—28	255	13—46	343	11—23	41	0.1195	⊖ 0.0304	3.0	3.0	2.0	8.0	
10	86	7—36	4	0.0465	1.4254	89	4—13	255	13—09	344	10—50	29	0,0843	⊖ 0.0180	3.0	2.3	1.0	6.3	
11	87	7—09	11	0.1264	1.7203	88	4—18	255	15—03	343	12—18	65	0.1895	0.0279	3.0	2.3	2.0	7.3	
12	87	6—57	15	0.1724	1.5923	88	4—07	255	13—28	343	11—04	41	0.1195	0.1550	2.7	2.0	3.0	7.7	
13	86	7—13	10	0.1163	1.6351	89	4—08	255	14—28	344	11—48	46	0.1337	0.0565	3.7	4.0	3.0	10.7	
14	89	7—18	17	0.1910	1.5114	86	4—18	255	13—35	341	11—02	29	0.0850	0.2037	3.3	3.0	3.0	9.3	
15	87	6—46	18	0.2069	1.6724	88	3—55	255	13—52	343	11—19	80	0.2332	0.1128	2.7	2.7	3.0	8.4	
16	80	7—04	21	0.2625	1.5825	95	3—57	255	13—53	350	11—11	73	0.2086	0.2068	3.7	4.3	4.0	12.0	
17	83	7—09	14	0.1687	1.5594	92	4—15	255	13—38	347	11—09	53	0.1527	0.1104	2.0	2.3	3.0	7.3	
18	83	6—08	4	0.0482	1.8505	92	4—19	255	13—59	347	11—21	44	0.1268	⊖ 0.0376	3.0	2.0	1.0	6.0	
19	84	7—07	4	0.0476	1.4941	91	4—10	255	12—56	346	10—38	30	0.0867	⊖ 0.0156	3.7	3.7	2.0	9.4	

回	枚	時—分	尾	釣獲率	時間比	枚	時—分	枚	時—分	枚	時—分	尾	釣獲率		釣の獲率差	風力	波浪	ウネリ	係数	備考
20	81	11—25	7	0.0864	1.1416	94	9—18	255	14—24	349	13—02	39	0.1175	⊖	0.0186	3.0	3.0	1.0	7.0	縄廻り
21	84	9—57	3	0.0357	1.1960	91	8—26	255	13—08	346	11—54	21	0.0607	⊖	0.0180	3.3	2.0	1.0	6.3	縄廻り
22	81	7—10	4	0.0494	1.4953	94	4—25	255	13—03	349	10—43	23	0.065[illegible]		0.0080	3.0	3.0	2.0	8.0	
23	82	7—38	10	0.1220	1.4760	93	4—41	255	13—40	348	11—16	29	0.0833		0.0968	2.7	2.3	2.0	7.0	
24	84	7—54	1	0.0119	1.4852	91	5—05	255	14—06	346	11—44	22	0.0636	⊖	0.0459	3.3	3.0	2.0	8.3	
25	86	7—34	4	0.0465	1.4626	89	4—36	255	13—20	344	11—06	22	0.0643		0.0040	1.7	2.0	3.0	6.7	
26	84	7—58	9	0.1071	1.4435	91	5—03	255	13—48	346	11—30	41	0.1185		0.0361	3.0	4.0	3.0	10.0	
27	83	8—01	9	0.1084	1.4740	92	5—18	255	14—10	347	11—49	61	0.1758		0.0161	3.0	4.0	3.0	10.0	
28	86	8—04	26	0.3023	1.3140	89	5—03	255	14—12	344	10—36	50	0.1453		0.2519	2.0	3.3	3.0	8.3	
29	83	7—54	0	0.0000	1.4789	92	5—06	255	14—04	347	11—41	31	0.0893	⊖	0.0893	3.3	3.3	2.0	8.6	
30	79	13—10	21	0.2658	1.1013	96	10—24	255	16—03	351	14—30	91	0.2593		0.0334	2.3	3.0	2.0	7.3	縄廻り
31	81	8—29	11	0.1358	1.2790	94	5—38	255	14—29	349	10—51	40	0.1146		0.0591	3.0	3.0	2.0	8.0	
32	88	8—10	12	0.1364	1.5143	87	5—18	255	14—46	342	12—22	60	0.1754		0.0312	1.7	3.0	2.0	6.7	
33	85	7—52	3	0.0353	1.4513	90	5—12	255	13—37	345	11—25	13	0.0379		0.0133	3.0	3.0	2.0	8.0	
34	88	9—11	2	0.0227	1.3975	87	6—00	255	15—10	342	12—50	21	0.0614	⊖	0.0297	3.3	3.3	1.0	7.6	
35	84	8—34	10	0.1190	1.4163	91	5—40	255	14—27	346	12—08	33	0.0954		0.0731	1.7	2.0	2.0	5.7	
36	92	8—12	6	0.0652	1.5447	83	5—31	255	15—00	338	12—40	144	0.4260	⊖	0.3253	1.0	0.0	1.0	2.0	
37	83	8—25	6	0.0723	1.4396	92	5—37	255	14—28	347	12—07	39	0.1124	⊖	0.0083	1.0	1.0	1.0	3.0	
38	84	7—51	5	0.0595	1.4650	91	5—05	255	13—48	346	11—30	40	0.1156	⊖	0.0285	1.7	1.7	1.0	4.4	

まぐろ研究報告の紹介
No. 13

キハダの産卵期とその海域的差異について

木 川 昭 二

(南海区水研報告 11, 1959)

本稿は主として地方公庁船（水産試験場試験船，水産高校実習船）の調査結果から，キハダの産卵期について中間的にとりまとめを行ったものである．1959年6月現在で、118航海，約14,600尾のキハダの卵巣重量の資料にもとづいて，赤道太平洋と南太平洋方面の5海区での産卵期もしくは産卵盛期を推定し，その海域的差異を考察した．

赤道海域について，まず海区Iではほぼ7～11月，海区IIでは6～10月，海区IIIでは4～8月がそれぞれ産卵の盛期と推定される．また南太平洋方面については，海区IVでは12～3月，海区Vでは11～2月はともに産卵期であることが推定される．

上のような各海区での産卵期から次の事柄が推定される．

1) 南北の海区間で産卵期がほぼ逆になっていること，即ち海区I～IIIと海区IV，Vとの間の時期の関係．

2) 東西の方向に対しては産卵期は徐々に変化していること，即ち，海区I，II，IIIのそれぞれの間の時期の関係．

3) 産卵期又はその盛期は約半年ぐらいの期間をもっていること．

魚体の大きさとの関係については次の事柄がみとめられる．

東方の海区程大きい魚体が増えているように，産卵群は東方程大型化している．成熟魚は80cm以上にみとめられる．ただし，80cm以下からの資料はない．魚体の大きさからみたGonad indexの季節変化によれば，海区I～IIIでは季節変化の傾向は大小によらずほぼ一定とみなされる．しかし，海区IV，Vでは必ずしも一致せず，大小によって Spawning activity のピークが季節的に前後していることが示唆される．（文責 中込）

東支那海におけるマグロ延縄漁業の研究——IV
シロカジキの生態

古 藤 力・古 川 一 郎・小 玉 恵 一

(南海区水研報告 11号，1959)

シロカジキの生態調査から得られた知見を要約すると次のようになる．

1) シロカジキはやや沿岸海区に Restrict された分布を示し，東支那海では黒潮及び対馬海流と黄海水系とが接触する水域に漁場が形成され，他のカジキ類の漁場よりも浅い水域に分離されている．

2) 東支那海で漁獲されるシロカジキの体長範囲は105～330cmで，主群は140～210cm級となっている．肥満度の範囲は6.00～19.00となっており，11.00～13.00のものが多い．

3) 東支那海のシロカジキは Feeding-group である．この群は9月迄北上洄游し，10月になると反転南下洄游に移る．

4) 毎年4～5月を中心とした期間に魚群構造の更新がみられ，越年群が逸散し補充群が添加される．

5) 大まかにみると大型群で4～5月，小型群で6月に新しい魚群が添加されるが，もう少し詳しく

みると，大型群では3月，小型群では5月にそれぞれ僅かではあるが添加の徴候をみせている．

6) 逸散は2月から明確となるが，同一魚群体と考えられる台湾東海群をも含めて考察すると，添加と逸散は3月を転機に行われるものと考えられ，北半球における他のマグロ，カジキ類の場合と軌を一つにしている．

7) 12月頃から始まる200cm以上の体長級の逸散は，Spawning activityによるものと考えられる．

8) 東支那海のシロカジキの魚群量には年変動が著しく，近年漸次減少しており特に大型群が減っている．又漁獲物組成の Mode にみらた隔年的変動は，57年以上降崩れている．（文責　中込）

業　界　メ　モ

1960年6月

6月3日　三崎魚市場水揚優秀業者漁船きまる

昭和34年度における優秀漁業者，漁船が次の様に発表された．

漁業者	1位	大洋漁業三崎営業所	179,417,966円	2,354,348.7キロ
	2位	宝幸水産三崎事業所	173,305,806円	1,967,040.5キロ
	3位	日魯漁業三崎事業所	156,166,616円	1,739,010.4キロ
遠洋延縄漁船（350トン以上）	1位	第15丸高丸	76,767,672円	745,598.9キロ
	2位	房総丸	62,120,500円	641,081.5キロ
	3位	大島根丸	50,713,734円	469,795.1キロ
同（200〜350トン）	1位	第5金比羅丸	71,778,957円	744,086.8キロ
	2位	第18光洋丸	65,164,862円	700,646.3キロ
	3位	第2孝勇丸	55,075,220円	584,103.6キロ
同（200トン未満）	1位	第12精良丸	34,127,310円	372,809.4キロ
	2位	第1富佐丸	33,309,868円	370,110.8キロ
	3位	第1月山丸	31,224,102円	303,505.8キロ

（港報）

6月8日　大洋報国両船団の水揚順調

大洋漁業KK母船天洋丸（3,200トン）は去る5月16日フイジー諸島海域に到着以来続々独航船（第2東丸以下45隻）から水揚しているが6月3日現在868トンで昨年と比較してもまずまずの成績である．一方報国水産KKの母船野島丸（8,000トン）は5月28日漁場に到着独航船第1海政丸はじめ20隻から約100トン近くが水揚され今のところ順調に行っている．（港報）

6月10日　巾着に代わる米マグロ漁業

6月5日来日した米国の漁業誌パシフイックフイシャーマン事業部長リチヤード・クロスビー氏は次の様に語った．

1. スタキスト社が最近建設したプエルトリコの缶詰工場は1日150トン生産と2,000トンの冷蔵能力があり全工場がエアコンデイションになっている．

　この種工場としては初めての設備であり大西洋に出漁している日本マグロ船の漁獲物を目的として建設せられた．

2. 最近の米マグロ船は釣漁業から巾着網漁業に急速に代わりつつある．航海日数の短縮乗組員の減員など釣漁業よりはるかに経済的であるため船主は巾着網船に改造を急いでいるが昨年よりまたグンと巾着網船が増えるだろう．（水産経済）

6月19日　近海マグロ塩釜など滞貨の山

旋網漁による近海マグロが好漁で値段も下る一方，塩釜魚市場に14日10隻が約4,000本（176トン）15日12隻約3,500本（165トン）を水揚した．漁場はすでに釜石沖に北上しているが引続き好漁が期待され値段は急落しはじめ平均2,600〜700円したのが15日には1,300〜1,000円と早くも夏マグロの安値となっている．

（水産経済）

本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌「鮪 漁 業」第6—70号（第1—5号品切）　　各150円　郵送料 16円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月 至昭和 28 年 4 月）
　1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料 24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月 至昭和 29 年 3 月）
　1 部　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料 40円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月 至昭和 30 年 3 月）
　1 部　300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）

鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月 至昭和 31 年 3 月）
　1 部　400円　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）

1956年4月～57年3月に於ける鮪漁場の漁況と海況
　1 部　500円　（送料共）（B 5 判 112 頁）

鮪 漁 船 操 業 図（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
　1 枚　50円　郵送料 8円

鮪　漁　場　図（海区別に表示したもの）
　10 枚　100円　郵送料 16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真をお願い致します。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1,500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎昭和32年度版鮪類水揚地調査報告、残部僅少でありますが御希望の向は御申込下さい。定価1部 500円 但し既刊の昭和28年. 29年. 30年. 31年度分と一括購入の場合は 5 冊特価 1,600円（送料共）

尚昭和33年度版については予約募集中のところ近日出来上る予定につき御希望の方は御申込下さい。

—— お　願　い ——

◎昭和33年分34年分会費（一ヵ年分 1,700 円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止することもありますからお含み願いあげます。

会費は前納の規則ですので昭和35年度分についても未払いの方は払込方よろしくお願いします。

鮪　漁　業

1960年 6 月号

昭和 35 年 6 月 10 日 印 刷
昭和 35 年 6 月 10 日 発 行

監　修　神奈川県水産試験場
編集兼発行人　菅　野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発 行 所　鮪 漁 業 研 究 会

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造

装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原（712）2525・2526・3314番

高性能を誇る!!
鮪漁船用送受信機

穂高通信工業株式会社

本社及工場　東京都新宿区下落合一丁目六番地
電話落合（951）1136番（代表）

◇新時代の冷凍機◇
（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）
漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設
設計・製作・施工

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話 大崎（49）代表 2171―9番（49）2170・6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表 0974―5（36）2171―9（内線350―1）

――多年の技術と経験を生かす！――

営業種目　船　舶・陸　上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置・冷房装置
冷凍機械器具・防熱装置
船舶冷凍冷蔵
　設計　製作　施工

協同低温工業株式會社

本　　社　東京都千代田区神田佐久間町1—21（山伝ビル）
電話（291）6101～5（内線31～3）
（291）7506（直通）
札幌営業所　札幌市北五条西5丁目　電話　札幌(2)4895

＝設備完成＝

鋼木船の造船修理一般

500噸　船台4基
起重機10噸・7.5噸・5噸各1基

三崎船舶工業株式会社

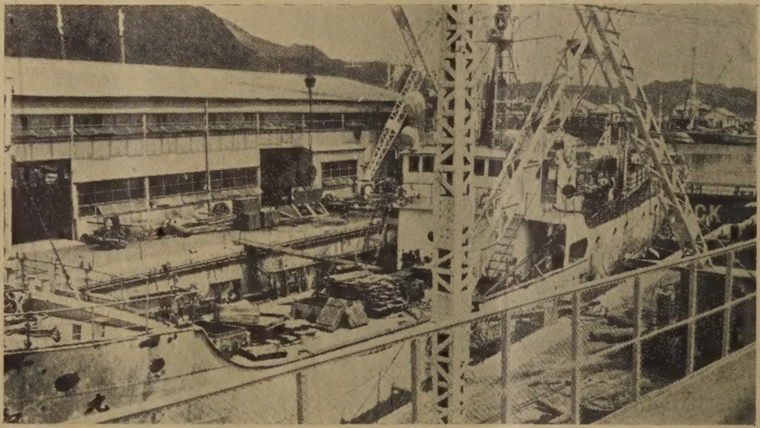
本　　社　東京都中央区西八丁堀2ノ10　電話築地（551）9611～5
工　　場　神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446　電話（三浦）（代）3141

鮪漁業 第七十号 昭和三十五年六月十日発行（毎月一回十日発行）
昭和二十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

漁船の建造、修理の御相談は

ドライドック	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500屯	2
		2条軌条式	50 米	250屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港 本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番 本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ケ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所 東京都中央区銀座東4—4 畜産会館1階 電話東京(541)9270(直通),4121(代表)～8番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社 泉井鉄工所
高知県室戸町